

平成29年度 活動状況

※定款第4条該当項

※	演奏会名	演奏回数	入場者数	備考	
第一項第一、二号	自主公演	定期演奏会	24回	39,846人	【会員数】 Aシリーズ 1,202人 東京文化会館8回 Bシリーズ 1,210人 東京オペラシティ3回 サントリーホール5回 Cシリーズ 1,000人 東京芸術劇場8回
		プロムナードコンサート	5回	8,074人	【会員数】 1,142人 東京オペラシティ2回 サントリーホール 3回
		特別演奏会	9回	16,335人	<都響スペシャル> 東京芸術劇場 2回 ミュゼザ川崎シンフォニーホール 1回 <第九> 東京芸術劇場、東京文化会館、サントリーホール 各1回 <その他> 札幌コンサートホールKitara 2回 フェスティバルホール(大阪) 1回
		小計	38回	64,255人	
	共催・提携公演	都響・調布シリーズ	1回	882人	提携：公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団
		都響×アプリコ	1回	1,357人	共催：公益財団法人大田区文化振興協会
		ボクとわたしとオーケストラ	2回	3,365人	共催：株式会社いわき市民コミュニティ放送（SEA WAVE FMいわき）、NPO法人いわきの子どもたちに音楽を届ける会、いわき芸術文化交流館アリオス
		ふれあいコンサート	1回	1,017人	共催：東京都、公益財団法人日本チャリティ協会
		小計	5回	6,621人	
	依頼公演		29回	41,656人	地方公共団体、文化振興団体等
第一項第二号	音楽鑑賞教室	54回	50,189人	主催：各区市教育委員会等 都内21区市	
	マエストロ・ビジット	1回	146人		
	音楽アーティスト交流教室	(150回)	—	会場：台東区立及び豊島区立小学校 下記 注1 参照	
第一項第一、二、三号	小規模演奏会	95回	16,445人		
	公開ゲネプロ	3回	673人		
	放送・録音	CD、DVD用録音	4回 〔1回〕	—	〔 〕内は同時録音
		CD、DVD制作	0回 〔3回〕	—	〔 〕内は同時録音、過年度録音等
		放送用録音、放送	0回 〔12回〕	—	〔 〕内は同時録音
		小計	4回 〔16回〕	—	下記 注2 参照
合計		229回	179,985人		

注1 音楽アーティスト交流教室は、台東区立及び豊島区立の小学校を都響OB楽員等が訪問するクリニック事業であり、〔 〕内はクリニックの回数で、外書きである。

注2 放送・録音の〔 〕内は自主公演等の同時録音あるいは過年度録音等であり、外書きである。

<参考>公益財団法人東京都交響楽団定款

第4条 この法人は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- 一 公開演奏
 - 二 青少年のための演奏事業
 - 三 その他の音楽芸術普及事業
 - 四 その他前条の目的を達成するために必要な事業
- 2 前項の事業を推進するために行う音楽演奏事業及びその他の付帯事業
- 3 第1項及び第2項の事業は東京都において行うものとする。

1 事業の概要

平成 29 年度も音楽監督:大野和士、終身名誉指揮者:小泉和裕、桂冠指揮者:エリアフ・インバル、首席客演指揮者:ヤクブ・フルチャという指揮者体制のもと、意欲的なプログラムを披露し多くの聴衆を魅了した。また都響指揮者陣の他にも国内外から指揮者・ソリストを迎え、高い芸術性を追求した。

楽団が主催する自主公演としては、楽団の芸術活動の中軸をなす定期演奏会はソワレ公演の A シリーズ (東京文化会館)・B シリーズ (東京オペラシティ、サントリーホール)、マチネ公演の C シリーズ (東京芸術劇場) の計 24 回を実施 (各シリーズ全 8 回)。親しみやすいプログラムを中心として幅広い層に親しまれているプロムナードコンサートを 5 回、そのほか、特別演奏会として毎年恒例の「第九」公演や大阪・札幌での公演などを 9 回実施し、合計 38 回、約 6.4 万人を動員した。

共催・提携公演は、公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団との提携による「都響・調布シリーズ」公演、公益財団法人大田区文化振興協会との共催実施の「都響×アプリコ」公演、東京都、公益財団法人日本チャリティ協会とともに実施した「障害者のためのふれあいコンサート」のほか、平成 23 年度より実施している被災地支援「ボクとわたしとオーケストラ」公演 (いわき市) を 2 回開催、合計 5 公演を実施した。

地方公共団体や文化振興団体などからの依頼公演は、東京・春・音楽祭やドラゴンクエスト公演、プレミアムコンサート、オペラ公演など合計 29 回を実施した。

青少年を対象とした音楽活動としては、音楽鑑賞教室を都内 21 区市にて 54 回、音楽監督大野和士によるマエストロ・ビジットを 1 回実施し、オーケストラ鑑賞の機会や演奏家との直接のふれあいを通じて、約 5 万人の子供たちに音楽の持つ魅力を伝えた。

小規模演奏会は、都内の病院や福祉施設を中心に、JR 上野駅構内や東京都議会、多摩地域や島しょ地域などでも演奏を行ったほか、東北の被災地での演奏を継続的に実施した。また前年度より実施している、国立西洋美術館の企画展のテーマに合わせて室内楽を楽しんでいただくコラボレーション企画など、合計 95 回実施した。

また、テレビ放送やラジオ放送、インターネット配信等のための収録など多岐にわたる活動を繰り広げた。

2 事業の内容

平成 29 年度の演奏活動は、定期演奏会を中心に年間 229 回にわたる演奏会を実施した。

I 公開演奏（定款第 4 条第 1 項第 1、2 号）

(1) 自主公演

ア 定期演奏会（24 回）

当団の芸術活動の中軸をなす定期演奏会は、1965 年の楽団創立以来、創造性に満ちた幅広い内容の企画による演奏会開催を目標とし、日本の音楽創造活動の牽引力となるべく、高い水準の先駆的な活動を継続している。

A シリーズを文化会館で 8 回、B シリーズはサントリーホールの改修工事に伴う休館のため、3 回を東京オペラシティで開催、残りの 5 回をサントリーホールにて開催した。マチネ公演の C シリーズは東京芸術劇場で 8 回（うち 3 回は平日開催）、全シリーズ併せて 24 回開催した。

シーズンの開幕を飾る第 828 回、第 829 回公演では指揮者アラン・ギルバートが登壇。2015 年 3 月にアラン・ギルバートの指揮で世界初演された現代屈指の人気作曲家ジョン・アダムズの《シェヘラザード.2》を、この作品を献呈されたヴァイオリニストのリーラ・ジョセフォウィッツをソリストに迎え、日本初演を果たした。

第 831 回、第 832 回では、イギリスの指揮者マーティン・ブラビンズが、母国を代表する作曲家ヴォーン・ウィリアムズの二大交響曲を披露した。

第 833 回では終身名誉指揮者の小泉和裕が、自身が得意とするシューマン作曲の交響曲をはじめ、ベートーヴェン作曲のピアノ協奏曲を取り上げ、深い信頼関係を築く都響の機能とサウンドを活かし、作品の魅力を伝えた。

第 835 回では音楽監督の大野和士が、細川俊夫作曲の弦楽四重奏との協奏曲《弦楽四重奏とオーケストラのためのフルス（河）》を日本初演した。現代音楽のスペシャリストであり、この曲を捧げられたアルディッティ弦楽四重奏団を迎えての日本初演が話題となった。

第 836 回では 2014 年に都響初登壇以来、共演のたびに絶賛されてきた指揮者のマルク・ミンコフスキが登壇。古楽を得意とするミンコフスキによるハイドン作曲の交響曲はもちろんのこと、後半に演奏したブルックナー作曲の交響曲第 3 番（初稿版）も、ミンコフスキと都響の息の合った演奏で聴衆を魅了した。

第 839 回、第 840 回では 2015 年の定期演奏会で共演し話題を呼んだ世界最高峰の合唱団・スウェーデン放送合唱団を再び迎え、大野和士が音楽監督就任当初より上演を熱望していたハイドン作曲のオラトリオ《天地創造》を演奏。劇的な音楽作品を得意とする大野が、名歌手陣とともに壮大なドラマを描いた。

第 842 回ではフィンランド独立 100 周年を記念し、シベリウス作曲の《クレルヴォ交響曲》を披露した。1974 年に都響が日本初演（指揮：渡邊暁雄）したこの楽曲を、指揮者にハンヌ・リントゥ、メゾソプラノのニーナ・ケイテル、バリト

ンのトゥオマス・プルシオ、そして合唱にはフィンランド・ポリテク男声合唱団という、本場フィンランドの演奏家とともに披露した。アンコールとしてシベリウスの交響詩《フィンランディア》を合唱付きで演奏し、会場が感動に包まれた。

第 844 回、第 845 回は、今シーズンで首席客演指揮者の任期を終えるヤクブ・フルシャが 8 年間の集大成として、ブラームス作曲の交響曲と同郷チェコの作曲家マルティヌーの交響曲のそれぞれ第 1 番と第 2 番を披露。ブラームスとマルティヌーの交響曲はこの演奏で都響とのツィクルスが完結し、これまで共演を重ね築いてきたフルシャと都響の音楽が、大きな感動となり、鳴り止まぬ拍手でフィナーレを迎えた。

第 847 回、第 848 回では大野和士がメシアン代表作《トゥーランガリラ交響曲》を、ピアノにヤン・ミヒールス、オンドマルトノには名手・原田節を迎えて壮大に奏でた。前半には現代フランスを代表する作曲家の一人トリスタン・ミュライユのメシアン追悼曲《告別の鐘と微笑み》（ピアノ・ソロ）を、同じくミヒールスが暗闇の中で神秘的に奏で、そのプログラム構成によって全体がより印象的な公演となった。

第 849 回、第 850 回、第 851 回は桂冠指揮者エリアフ・インバルが連続で登壇。インバルが得意とするショスタコーヴィチ作曲の交響曲から《レニングラード》、壮大で多彩な魅力をもつベルリオーズ作曲の《幻想交響曲》、多くの人にも馴染み深いシューベルト作曲の交響曲《未完成》とチャイコフスキー作曲の交響曲《悲愴》などを披露し、いずれも入場率 90%と大盛況の公演となった。

イ プロムナードコンサート（5 回）

プロムナードコンサートは、親しみやすいオーケストラの名曲を第一線で活躍する指揮者やソリストの演奏で聴いていただき、気軽に楽しめる休日マチネコンサートとしてオーケストラ音楽の一層の浸透を図っている。本年度はサントリーホールが改修工事による休館のため、東京オペラシティで 2 回、サントリーホールで 3 回、計 5 回実施した。

シリーズの初回を飾った No. 372 公演では、小泉和裕の指揮でベートーヴェンとメンデルスゾーンの名曲を余すところなくお届けした。No. 373 公演では大野和士が、デンマークの作曲家ゲーゼの交響曲を紹介したほか、ベルリン・フィルの首席ホルン奏者シュテファン・ドールが R. シュトラウス作曲のホルン協奏曲を披露。圧巻のテクニックと自由自在に変化する音色が聴衆を魅了した。No. 374 公演では都響とも数多く共演を重ねる梅田俊明が登壇し、ブラームス、チャイコフスキー、エルガーがそれぞれ作曲した変奏曲を並べたプログラムをお届けした。No. 375 公演では定期演奏会に先駆けてフィンランドの指揮者ハンヌ・リントゥが自国が誇る作曲家シベリウスの交響曲を披露した。No. 376 公演では指揮者の準・メルクルが待望の都響初登壇を果たし、得意のドイツ音楽を中心としたプログラムで聴衆の期待に応えた。

ウ 特別演奏会（9回）

① 都響スペシャル（3回）

特別演奏会ではシリーズ演奏会（定期演奏会、プロムナードコンサート）の枠にはまらない企画性に富んだプログラムを組むことにより、幅広い聴衆層の獲得を目指し、オーケストラ音楽の浸透を図っている。

平成 29 年度は、7 月にエリアフ・インバルの指揮によるマーラーの大作《大地の歌》を、世界中で活躍するコントラルトのアンナ・ラーション、テノールのダニエル・キルヒを迎えて披露し喝采を浴びた。また、3 月には第 851 回定期演奏会と連続して同プログラムのコンサートをミューザ川崎で開催し、定期演奏会を上回る 94% の入場率を記録した。

② 第九公演（3回）

年末恒例の「第九」公演は、音楽監督大野和士の指揮により、東京芸術劇場、東京文化会館、サントリーホールにて各 1 回実施した。

③ その他（3回）

平成 27 年度に続き 3 回目の開催となる大阪公演（4 月）は、指揮者アラン・ギルバートとピアニストのイノン・バルナタンの共演で、多くの聴衆から好評を得た。また、平成 17 年度より隔年で開催している札幌公演（9 月）は、今回で 7 度目の開催となり、本年度も 2 公演を実施した。

（2）共催・提携公演（5回）

ア 都響・調布シリーズ

多摩地域での演奏活動の活性化を意図したシリーズで、ホールと連携を図り地域との繋がりを深めている。平成 13 年度から公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団との提携により実施しており、本年度で 19 回を迎えた。例年同様、調布市グリーンホールにて 10 月に開催した。

イ 都響×アプリコ

公益財団法人大田区文化振興協会との共催事業として、身近なホールでの演奏会開催を望む音楽ファンの期待に応えるべく、協会と連携を図りながら企画を進め、11 月に開催した。

ウ ボクとわたしとオーケストラ

平成 23 年度より実施している被災地支援「ボクとわたしとオーケストラ」公演（いわき市）は、平成 28 年度から共催として実施（午前の部：小学生、午後の部：中学生の計 2 回）しており、これまでに招待できた児童・生徒数は述べ 2 万人を超えた。

エ ふれあいコンサート

障害を持つ方やそのご家族を対象とした演奏会を、東京都及び公益財団法人日本チャリティ協会と連携して実施しており、本年度で 34 回を迎えた。

(3) 依頼公演 (29 回)

ア 都内

東京・春・音楽祭 (4 月)、八王子「ドラゴンクエスト」公演 (6 月)、すぎやまこういち「ドラゴンクエスト」公演 (8 月)、フレッシュ名曲コンサート (10 月)、「作曲家の個展」公演 (10 月)、「メトロポリス・クラシックス」公演 (11 月)、「港区&サントリーホール Enjoy!Music プロジェクト」公演 (1 月)、日本赤十字社チャリティ・コンサート (1 月)、東京二期会オペラ劇場『ローエングリン』 (2 月)、東京シティ・バレエ団創立 50 周年記念公演『白鳥の湖』 (3 月)、都民芸術フェスティバル (3 月) など、多彩な公演に出演した。

加えて、東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団が主催する演奏会にも出演しており、夏休み子供音楽会、響の森 (全 2 回)、Music Program TOKYO (全 2 回) やプレミアムコンサート (全 7 回) に出演した。

イ 地方・近郊公演

フェスタサマーミュージザ KAWASAKI (7 月) に出演し、都響をアピールするとともにオーケストラ音楽の一層の浸透と裾野の拡大に貢献した。

II 青少年のための演奏 (定款第 4 条第 1 項第 2 号)

(1) 音楽鑑賞教室 (54 回)

次代を担う子供たちに質の良い音楽を提供し、音楽・文化を愛する若者を育てていくことは、青少年育成に力を注ぐ都響の重要な使命の一つである。事前に教員や教育委員会などと打ち合わせを重ね、子供たちに親しみやすい曲から本格的なクラシック音楽まで、プログラム、企画、構成など工夫を凝らしており、子供たちのみならず関係者にも好評を得ている。本年度も都内 21 区市の小・中学生を対象に、各地のホールにて 54 回実施した。

(2) マエストロ・ビジット (1 回)

平成 16 年度より引き続き実施しており、本年度は音楽監督の大野和士が中央区立日本橋中学校を訪問し、特別授業を行った。大野による指揮体験活動や、合唱と吹奏楽の直接指導など、子供たちとの対話を通じて音楽を創り上げていく楽しさや興味を深める取り組みを行った。

(3) 音楽アーティスト交流教室 (150 回)

都響楽員 0B 等が小学校を訪問し、楽器の演奏指導を行う事業である。平成 17 年度から台東区内で実施しており、平成 22 年度からは対象地域を豊島区にも拡大。本年度は例年より実施回数を 25 回増やし、150 回の演奏指導を実施した。

Ⅲ その他の事業（定款第4条第1項第2、3号及び第2項）

(1) 小規模演奏会（95回）

顔の見えるオーケストラとしてより多くの方々へ音楽を届けることを目指し、平成14年度から小規模アンサンブルを中心にデリバリー形式の演奏会を積極的に実施している。

主に病院や福祉施設にて演奏した「ふれあいミニコンサート」（共催：一般財団法人東京都弘済会）、「音楽の贈りものコンサート」（主催：公益財団法人メトロ文化財団）などのほか、JR駅構内エキュート上野で開催した「ステーションコンサート」（主催：JR東日本リテールネット株式会社）、東京文化会館との共催事業「ティータムコンサート」など、多くの方々に演奏を楽しんでいただいた。また、神津島村、新島村、御蔵島村、三宅村、小笠原村、大島町での島しょ公演をはじめ、多摩地域でも多くの公演を実施し活動の幅を広げた。

東京都以外の地域へも積極的に出向いており、被災地支援として福島県南相馬市の小・中学生に音楽を届けた「Class Concert2018」のほか、岩手県野田村、宮城県石巻市などでの演奏会を本年度も実施し好評を得た。

(2) 公開ゲネプロ（3回）

TMSO サポーターを対象とした公開ゲネプロを、定期演奏会にて実施した。その他、依頼公演において2回の公開ゲネプロを行った。

(3) 放送・録音（4回〔16回〕（〔〕内は同時録音、過年度録音等））

大野和士指揮の第847回定期演奏会（メシアン作曲「トゥーランガリラ交響曲」）がNHK Eテレ「クラシック音楽館」で放送され、大きな反響を呼んだほか、ドラゴンクエストのCD用録音や公演のインターネット同時配信など、多くの方に音楽を楽しんでいただく機会を提供した。